

# センター後援行事

## 第3回 教育研究交流会

報告者 市川 伸一(教育心理学コース 教授)

実施日 2010年6月12日

於 教育学部156

### はじめに

本研究科教育心理学コースの市川研究室主催で、大学院生、卒業生、教育関係者とともに実施しているこの交流会は、2009年度からはじまり、本年で第3回目を迎える。その趣旨は、教育実践に関わるような研究を大学から発信するとともに、教育実践や教育行政に携わっている方々との研究連携を促進することである。

昨年の第2回目は、全国から130名もの参加があり、たいへんな盛況であったが、5つの分科会を並行して開くことによって、人数の偏りが大きくなることや、他の分科会に参加したくてもできないという問題が生じた。そのため、今年度は、並行セッションをとりやめ、分科会を3つに絞り、参加者も80名ほどに抑えることとした。

はじめに、主催者を代表して市川からシンポジウムの企画趣旨と、市川研究室の中で協同研究として行われている研究テーマの概要を述べた。続く3つの分科会のテーマは、それぞれ、授業改善のための検討会のあり方(市川・植阪友里担当)、家庭学習についての効果的指導(篠ヶ谷圭太担当)、地域教育の活性化(石幡愛担当)に関するものであった。その後、参加者から募ったポスター発表の時間をとり、研究交流を行った。本報告では、学校教育高度化と関連の深い分科会1、分科会2について、予稿集からその概略を示す。

### 分科会1

#### 「三面騒議法」による授業検討会のあり方

**授業後の検討会のあり方** 授業後の検討会(学校では「協議会」と呼ばれることが多い)がなかなか有

意義なものにならないという声を学校の先生方からしばしば聞く。ベテランの教師が授業者になった場合(あるいは、外部から講師を呼んで示範授業をしてもらった場合)は、およそ批判的な質問や意見は出ない。一方、若手教師が授業者となった場合には、中堅・ベテランから一方的な批評や指導を受けることとなって、議論になりにくい。たとえ、議論する風土のある学校でも、発言者はごく一部に限られるようだ。また、中学校、高校ともなると、他教科の授業に意見するということはまずないと言ってもよいほどである。

発言しない教師たちがけっして関心や意見が希薄なわけではない。あとから、用紙に記入してもらったり、個人的に聞いたり、2次会(学校で「反省会」というのはこちらをさすことがある)の席になると実に、いろいろな意見をもっていることがわかる。これが、検討会の場で出てくれば、さぞかし有意義な議論になつたであろうと思うのであるが、実際には、検討会はすでに終わっている。やはり、人間関係上、直接的には言いづらいこともあるのだろう。また、公開研究会や教育委員会主催の研修など、多くの参加者がいる場合に、手をあげて発言しづらいのも理解できる。しかし、それを乗り越えていかないと、せっかくの研究授業が活かされず、授業者にとっても参加者にとっても、授業改善のヒントが得られない。実にもつたいない話である。

### 建設的提案とグループ討議の重要性

報告者と参加者の双方にとって有意義な検討会にするためには、報告者の実践から学ぶことと同時に、実践に対する建設的な批判や応用可能性を出し合

うことであろう。市川研究室で長年行ってきた「認知カウンセリング」(個別学習相談)のケース検討会は、「批判するときは代案を出す」という原則で行われてきた。最近、この検討会で、「教えて考えさせる授業」(市川、2008)の授業報告もときおり行われるが、その時も大事な原則としている。一方、教員研修や公開研究会の授業検討の場でこうした実践検討をするときは、まず小グループの中で疑問点や賛否両論を自由に述べ合ってから全体に発表してもらうことで、できるだけ参加意識を高め、多様な意見が出やすいような工夫をしてきた。このように、建設的な提案を述べあうことと、グループ討議の導入というのは、参加しがいのある検討会にするための重要な原則ではないかと考えられる。

そうした折、2009年12月、広島県江田島市立三高(みたか)中学校で、筆者(市川)が「教えて考えさせる授業」のデモ授業を実施したときに、同校でかねてから行われていたという「2色の付箋に肯定的な意見と問題点・活用例の意見を書き、グループの中で出し合い、集約して発表する」という検討方式が、「教えて考えさせる授業」の4段階と組み合わされ、非常に活発で有意義な討論が行われるのを目撃した。当初、中学校側も、外部の授業者を前にして、問題点を指摘したりしてよいかを非常に気にしていたらしい。しかし、授業者側からも、それが授業の理解や改善につながるので、むしろ強くお願いしたみたいである。

### 「三面騒議法」の手続きと心構え

その後、評価できる点、改善案、応用例などを3色の付箋にし、いくつかの授業検討会で行うことによって、有効性を再確認するに至り、手続きも定式化して、このたび「三面騒議法」として提案する。当日は、「教えて考えさせる授業」の実践 DVD(市川の行った、貝塚市における小学校国語の「はじめてのプレゼン」という授業)を素材にして、参加者にも授業検討会を体験していただくこととする。重要なのは、その手続きを形どおり行うことではなく、むしろ、その場

における司会進行者(当日は植阪が務める)、実践報告者、参加者の心構えなので、それに対する注意事項もある程度明示化することを考えている。

## 分科会2

### 効果的な学習サイクルを目指した家庭学習指導

**企画趣旨** 近年、学力低下の問題から学習習慣の重要性が再認識され、予習、授業、復習といった、学習のサイクルを確立させることが重要であるとの指摘がなされている(市川、2004)。こうした中、現在では宿題を出すなどして、家庭学習が促されるようになっている。

しかし、家庭学習を促したとしても、生徒は必ずしも効果的な方法で学習を行っているわけではない。「勉強しているのに成績が上がらない」と訴える生徒は多く、こうした生徒の多くは学習のやり方に問題を抱えているように思われる。実際、中高生の約7割が「上手な勉強の仕方が分からない」と回答していることが調査により明らかにされている(ベネッセ教育研究開発センター、2006)。家庭学習時間の低下には歯止めがかかったとの報告がなされている一方で(耳塚、2007)、学力調査では依然として問題が残っていることも、効果的な方法で家庭学習が行われていないことを示唆するものであるといえる。

こうした状況を打破し、予習、授業、復習という学習サイクルの質を高めていくためには、生徒自身が自らの学習法を自覚的に捉え、効果的な学習法に関する知識を体系的に学ぶ機会を提供する必要があると考えられる。自立した学習者を育成するためにも、教科の学習内容を習得させるだけでなく、効果的な学習方法とは何かを正確に把握した上で、それを生徒に指導していくことは非常に重要であろう。そこでこの分科会では、予習、授業、復習という学習サイクルの質を向上させるために、家庭で予習や復習を行う際に有効な学習法をどのように生徒に指導していくべきよいかを参加者の方々と考えていきたい。

学校教育の中で、学習法を指導するための 1 つの方法として考えられるのが学習法に関する講座を実施することである。ただし、単に効果的な学習法を伝えるだけでは、生徒の学習方法を変容させることは難しい。この時重要になるのが、教えられた学習法に対する「有効性の認知」や、その学習法を実際に使用していくための「スキル」である。こうした点を踏まえ、この分科会の中で紹介する学習法講座では、学習法の有効性を実感させる活動や、教えた学習法を練習させる活動を入れるなどの工夫を行っている。

### **予習に関する実証的研究と学習法講座**

効果的な学習サイクルの実現のために、予習は重要な役割を果たすと考えられる。この分科会ではまず、予習が授業における学びにどのような影響を及ぼすのか、効果的な予習方法とはどのようなものかについて、一連の研究知見を紹介する。その上で、沖縄県うるま市で行った学習法講座について紹介を行う。予習を取り入れた学習指導を展開しても、何のために予習をしているのか、予習の有効性を生徒達が理解できていないという同市の状況を伝え聞き、筆者は中学生を対象に、予習の有効性を実感できるような心理実験を取り入れた講座を実施した。

### **復習に関する学習法講座**

復習時に使用する学習法を扱った講座の例としては、相模大野総合高校と、伊奈学園総合高校で行った講座について紹介する。どちらの取り組みでも共通しているのは、先述の予習に関する講座と同様、学習法の有効性を実感してもらうため、心理実験の体験を講座に組み込んでいることである。相模大野総合高校での取り組みでは、「覚える」、「問題を解く」という 2 つのテーマを設定し、様々な教科で講座を実施した。「覚える」講座としては、英単語の覚え方、数学公式の覚え方、化学の元素記号の覚え方、歴史の覚え方、「問題を解く」講座としては、英文解釈、数学の解法、理科の解法についての講座

を実施した。実施の際には大学院生だけでなく学校教員も講座を担当した。伊奈総合高校では 800 人の生徒を対象とした講演の形式で講座を行った。体育館での講演だったため、この講座では具体的な教科学習に落とし込んだ指導はできなかったが、これまでの自分の学習法を振り返り、効果的な学習法について考える姿勢の育成を目指した。

交流会当日は、これらの学習法講座を実施した時の様子や生徒の感想を紹介する。その上で、家庭での学習方法を教える際にどのようなことに気をつければよいか、学校ではどのような形式での学習指導が考えられるかを参加者の方々と議論したい。